耐冬花（たいとうか）

去年もこんなに寒かっただろうか。そんな愚痴をこぼしながら遠くの山を見ると、きれいに雪化粧をしている。去年と一昨年は「冬なのに暖かいなんて」とぼやいていたような記憶があるのだが。本当に自分勝手である。

こんな寒い日は何もする気が起きない。どこかへ行こうにも路面凍結が心配なので家でおとなしくしておこう。しかし、実家の様子が少し気になり電話すると、50㌢ほどの雪が積もっているらしい。僕の生まれ育った兵庫県中部から日本海側では冬になると結構な積雪量がある。慣れているとはいえ、くれぐれも気をつけるよう伝えて電話を切った後、幼少期の思い出が一つよみがえった。

大量の雪にウンザリ顔の両親を横目に、姉と雪だるまを作りに出掛けた。前日と一変した白銀の世界は、全ての動植物が眠っているよう。なんだか不思議な気分ではしゃいでいると冷えた体と相まって寂しい気持ちになったのだが、その寂しいモノトーンの景色の中に鮮やかな赤が映り込んだ。椿（つばき）の花だ。この極寒の中、雪の帽子をかぶりながら目を見開くように咲いている。それまでの気持ちは一瞬にして消え去った。

椿の別名は「耐冬花」というそうだ。けなげで凛（りん）と咲くこの花は、全ての者が目を閉じたくなる白と黒の季節にも鮮やかな彩りを与えてくれる。どんなに困難で先行きが見通せないような時代にも、必ずどこかで椿のような存在があり、たくましく輝いていると思えば、勇気が湧いてくるではないか。今年も椿のように咲き、生きる人に多く出会い、勇気をもらい、願わくばそのような存在になりたい、と思う。

新年あけましておめでとうございます。皆さまにとって良き年になりますように。

たかみ・だいすけ　日本文理大人間力育成センター長。専門は初年次教育、ユースワーク、ボランティア論。別府市在住。41歳。

c大分合同新聞社　無断複製転載を禁じます。